

在宅療養者の服薬管理に関する課題解決策の提案
ー情報共有ツールに関することー

【提案 1】

「電子お薬手帳」の普及に全市的に取り組むとともに、市民 P H R システム「MY CONDITION KOBE」に電子お薬手帳を連携させることにより、MY CONDITION KOBE から健康情報とともに調剤情報等を閲覧できるようにする。

<期待される効果>

本年 4 月から運用開始する市民 P H R システム「MY CONDITION KOBE」に、将来には「電子お薬手帳」を連携させることによって、市民が MY CONDITION KOBE から薬の状況を閲覧できるとともに、健康とくらしの状況に応じた健康アドバイス、服薬アドバイス等も受けることができる。

MY CONDITION KOBE が情報を一元管理できるツールとなることにより、関係多職種において、本人のスマートフォン等を介して健康とくらしの状況、調剤状況等を一元的に把握・共有できるツールになることが期待される。

(閲覧にあたっての本人許可等の仕組みが必要)

<電子お薬手帳の現状>

「電子お薬手帳」は、個人の一元化された調剤情報を薬局・医療機関等で共有できるツールで、処方箋の自動送信機能、QR コードを使った薬情報の登録、飲み忘れ防止・服薬管理、家族等の薬の管理等の機能を有しており、現在、複数開発されている。

～h a r m o (ハルモ) について～

電子お薬手帳のうち、神戸市薬剤師会とソニー社及び神戸市とが連携協定を結び普及推進しているソニー社の「h a r m o」については、個人情報と調剤情報の分離技術(データ保護)のほか、カード及びスマホアプリ両方に対応している等の特長がある。

※h a r m o カードの区別普及状況

区	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計
harmo 対応機関	22	15	18	40	8	28	8	55	20	214
harmo 交付数	3,048	4,755	4,078	10,931	1,277	23,460	2,786	10,654	6,928	67,917

～その他の電子お薬手帳について～

h a r m o 以外にも、日本薬剤師会の「日薬 e お薬手帳」など、スマホアプリ版の電子お薬手帳の普及が進んでいる。

このため、日本薬剤師会は、異なる電子お薬手帳の情報を相互閲覧できる仕組みである「e 薬 link (イクスリンク)」を提供しており、h a r m o も含め 42 の電子お薬手帳が対応している(平成 31 年 2 月現在)。

<市民PHRシステム「MY CONDITION KOBE」>

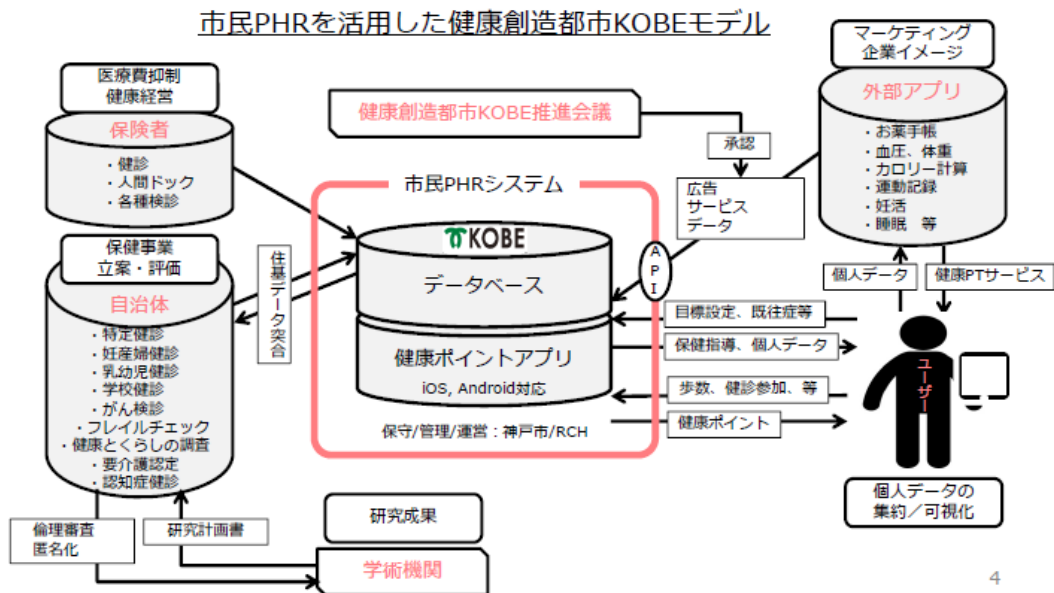
本市が本年4月から提供を開始する市民PHRシステム「MY CONDITION KOBE」は、健康情報を1つのアプリにまとめ、自分の健康状態の把握、健康状態に応じたアドバイスを提供するものである（本人同意のもと登録して加入、健康ポイントも付与）。

<提案事項>

MY CONDITION KOBE と h a r m o との連携、或いは、e 薬 link と連携対応する仕組みを導入していくこととする。

また、MY CONDITION KOBE が情報を一元管理できるツールとなることにより、関係多職種において、本人のスマートフォンを介する等して健康とくらしの状況、調剤状況等を一元的に把握・共有できるよう検討していく。

（閲覧にあたっての本人許可等の仕組みが必要）



（参考）紙のお薬手帳と電子お薬手帳との比較

紙のお薬手帳	電子お薬手帳
【メリット】 ・見やすさ・読みやすさ・提示のしやすさ ・書き込みやすさ ・普及・周知率	【メリット】 ・携帯性の向上 ・集約した管理 ・情報の保存量 ・補助的な追加機能（服薬アラームなど）
【デメリット】 ・携帯性 ・家族による管理・介護での管理 ・経年的に複数冊に渡る	【デメリット】 ・電子機器の操作 ・普及率 ・端末の提示や預けることが困難